

高校生が創る未来：やさしい日本語でつなぐ地域と防災

学校名	専修大学熊本玉名高等学校	所在地	〒 869-0293 熊本県玉名市岱明町野口 1046 TEL: 0968-72-4151 http://www.senshu.ac.jp/
校長名	渡辺 正隆		

〈学校概要〉 専修大学熊本玉名高等学校は、専修大学の伝統と学風を受け継ぎ、「社会に対する報恩奉仕」を建学の精神としています。この精神を現代的にとらえ直し、「社会知性の開発」を教育の柱とし、地域社会に根ざした学校運営を行っています。本校では、社会に貢献できる有為な人材を育成するために、「知」の輪を広げる活動を推進し、生徒が自ら学び、考え、解決する能力の養成に努めています。生徒の学力向上を図るため、「分かる授業」を徹底し、学習意欲を高める指導を実践しています。進路指導においては、1年次から進路意識を高めるキャリア教育を導入。就職課外、公務員課外、進学課外、資格取得講座、職場体験学習など、多様な支援を行い、生徒一人一人の希望進路の実現を目指しています。また、生徒の個性を尊重し、共感的な指導を行うことで、一人一人が自らの可能性を信じ、挑戦し続ける力を養うことを大切にしています。さらに、玉名市と包括的連携協定を締結し、地域課題の発見とグローバルな視点を持つ人材の育成を目指しています。この協定のもと、教育・文化・スポーツの振興や観光促進、SDGsの推進など、多岐にわたる分野で連携を強化しています。これにより、生徒は地域社会との関わりを深め、社会貢献意識やキャリア意識を高める機会を得ています。こうした取組を通じて、生徒のウェルビーイングを総合的に育む教育環境を提供しています。

また、小さな親切運動加盟校であり、インターアクトクラブ認証校としても活動し、熊本県SDGs登録事業者として、持続可能な社会の実現に向けた教育活動も推進しています。専修大学熊本玉名高等学校は、地域社会と連携しながら、生徒の成長を支え、将来の夢を実現するための環境を提供し続けます。

1 取組の内容

本校は、専修大学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」を継承し、地域社会への貢献を目的とした「社会知性フォーラム」を開催している。2024年12月7日に、テーマ「やさしい日本語で伝えよう—玉名の観光と防災—」として、玉名市の観光振興と防災について考えるフォーラムを実施した。この活動を通じて、生徒は地域課題の発見と解決に主体的に取り組む力を養い、自己実現や達成感を得る機会とした。

本フォーラムでは、玉名市役所産業経済部観光物産課の高田千織氏が「玉名市におけるインバウンドの現状と課題」について講演し、専修大学国際コミュニケーション学部の阿部貴人准教授が「福祉言語学で切り開く社会—『やさしい日本語』の活用—」をテーマに講演を行った。また、本校生徒による発表では、「やさしい日本語」を活用した観光と防災の具体的な事例を紹介した。生徒たちは4月下旬から11月下旬にわたり「やさしい日本語」について専修大学阿部准教授からリモートによる講義を受け、地域の外国人住民や観光客の視点に立った分かりやすい情報発信の方法を模索。玉名市の防災マニュアルを「やさしい日本語」で作成し、地域住民向けに説明するワークショップを開催するなど、実践的な活動を展開した。このフォーラムを通じて、生徒たちは社会課題を主体的に捉え、解決に向けて取り組む力を育むとともに、地域社会との協力の重要性を学ぶ機会を得た。

2 成果

このフォーラムを通じて、生徒たちは地域課題を主体的に捉え、解決に向けて行動する力を養った。特に、「やさしい日本語」を活用した防災情報伝達の取組は、行政や地域住民から高く評価され、実際に玉名市の防災対策の見直しに影響を与えた。生徒たちが作成した「やさしい日本語」を用いた防災マニュアルは、地元の防災訓練でも活用され、多言語対応の重要性が改めて認識された。

また、観光振興の観点からも、外国人観光客がより安心して玉名市を訪れるための環境づくりの必要性を深く理解する機会となった。生徒たちは観光案内所や宿泊施設を訪問し、実際の観光現場での「やさしい日本語」の有用性を調査し、改善点を提案した。その結果、地元観光協会と連携し、外国人向けの温泉パンフレットや案内標識の見直しが検討

されるなど、具体的な変化へとつながった。

さらに、フォーラムを通じて、生徒たちは言語の持つ影響力や情報伝達的重要性を実感し、学習した内容を実社会で応用する意識が高まった。特に、異なる立場の人々と対話しながら意見をまとめ、発表するプロセスを経験したことで、論理的思考力やプレゼンテーション能力が向上した。また、行政機関や大学との連携を通じて、地域社会の一員としての自覚を持ち、協働の大切さを学ぶ貴重な経験となった。このフォーラムをきっかけに、参加した生徒たちは今後も地域課題の解決に向けた活動を続けていく意欲が高まり、新たな地域貢献プロジェクトの企画にも取り組んでいる。

【高校生による課題報告】



取組発表



「やさしい日本語」化事例



阿部准教授と生徒たち

3 今後の課題

今後の課題は、以下のとおり。

（継続的な活動の展開）

本フォーラムの成果を一過性のものとせず、行政や地域社会と連携しながら「やさしい日本語」の活用を広げていく。特に防災情報の発信においては、定期的なワークショップや実地訓練を実施し、地域住民への浸透を図る。

（より多くの市民への周知）

フォーラムの内容を広く周知するため、SNSや地域メディアを活用し、情報発信を強化する。幅広い層にリーチできるよう工夫する。

（高校生による地方創生の推進）

高校生の力を生かし、地域の活性化に貢献する機会を増やす。高校生の創造力や問題解決能力を発揮し、地域の観光プロジェクトの企画・実施や、地域企業や行政と連携し、地域振興のためのアイデアを提案するなど、活動に取り組むことで、地方創生を牽引する存在となることが期待される。

- ・地域の観光プロジェクトの企画・実施

- ・地域企業や行政と連携し、地域振興のためのアイデアを提案

- ・AIやデジタル技術を活用した情報発信 などに取り組むことで、地方創生を牽引する存在となることが期待される。

（多文化共生の視点の強化）

「やさしい日本語」の活用を、外国人観光客のみならず在住外国人の生活支援にも広げ、多文化共生の環境づくりを進める。

今回のフォーラムを契機に、生徒たちは地域の担い手としての意識を高め、主体的に社会課題の解決に関わる力を養っていくことが期待される。特に、防災や観光振興における「やさしい日本語」の活用を継続し、地域住民や行政と協力しながら、より実践的な活動へと発展させていく必要がある。また、高校生ならではの発想力や問題解決能力を生かし、地方創生の担い手として地域の活性化にも貢献できるよう、新たなプロジェクトの立案や社会参画の機会を拡充していくことが重要である。本校は今後もこうした取組を推進し、生徒たちの成長と地域社会の発展に寄与していく。